



福島の風景はどれも穏やかで、
 人間を寄せつけない峻厳な自然などではない。
 むしろ人の手が入ることで生まれ、
 長い時間をかけて作り出されてきた里山の風景である。
 原発事故のあとでも、季節のめぐりに応じて、
 木々は繁り葉を落とし、花は咲き乱れ枯れ果てる。
 鳥や虫は空を飛び地面を這い回り、
 イノシシやシカなどの野生動物は我が物顔に数を増やした。
 そこには、いて然るべき人間だけがおらず、
 家や田畑ばかりが残されている。
 この風景はただならない。

木下直之(東京大学教授)
 土田ヒロミ写真集『2011-2017 フクシマ』みすず書房より

事前申し込み不要

参加費無料

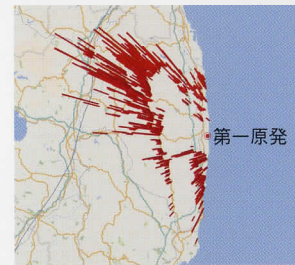
本トークイベントでは、開催写真展「2011-2017 フクシマ」と、
 土田ヒロミ氏が行ってきた写真制作について、
 ゲストとの対談で語っていただきます。

銀座ニコンサロントークイベント
 土田ヒロミ×川延安直(はまなな・あいづ文化連携プロジェクト事務局)
 2018年3月9日(金)19:00-20:30
 会場:銀座ニコンサロン

大阪ニコンサロントークイベント
 土田ヒロミ×上田俊英(朝日新聞社 編集委員)
 2018年4月6日(金)19:00-20:30
 会場:大阪ニコンサロン

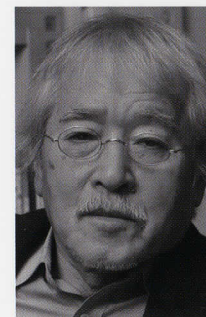
開催写真展「2011-2017 フクシマ」

銀座ニコンサロン 3月7日(水)ー3月20日(火)
 大阪ニコンサロン 4月5日(木)ー4月18日(水)



このグラフ付き地図は、2011~2017年に撮影した全カット(約5万枚)のすべての撮影位置情報(カメラ内臓ナビ)をシャッター数の頻度によって小区域別に集積しグラフ化したものである。棒グラフの高低は撮影の頻度を示している。撮影の位置と回数の関連を示すビッグデータの視覚化を試みた概念図である。

撮影機材:NIKON D3, D810, D800E
 グラフ地図作成:増田佳江<(株)スリークォーター>
 新澤正彦<(株)イージーアイ>



土田ヒロミ (つちだひろみ)

1939年福井県に生まれる
 ◆主な作品
 「俗神」(1976)「ヒロシマ」(1985)「砂を数える」(1990)
 ◆受賞
 「伊奈信夫賞」(1974)「日本写真家協会賞」(1984)「土門拳賞」(2008)
 ◆作品コレクション先
 東京都写真美術館、ニューヨーク近代美術館、ポンピドゥーセンター、サンフランシスコ現代美術館、テート美術館など